

太陽光発電普及拡大と長期安定稼働で脱炭素化貢献

NTTスマイルエナジー 武馬雄一郎代表取締役社長

NTTスマイルエナジーの武馬雄一郎氏は、7月1日より同社代表取締役社長に新たに就任した。同社では太陽光発電の長期安定稼働を実現する製品として遠隔監視システム「エコめがね」を提供しているほか、近年では太陽光発電・蓄電池のPPAサービスや自社による発電事業、また自治体も出資する地域新電力との協業や電気自動車（EV）を活用した実証なども手掛け、太陽光発電の普及への取り組みを幅広く展開している。今後のさらなる太陽光発電の普及拡大や長期安定稼働、脱炭素化実現に向けた事業展開などについて武馬氏にお話を伺った。

——これまで担当されてきた業務や今後への意気込みをお聞かせください

武馬 私はNTTの出身で、当初からエネルギー分野に従事していたわけではなかったが、20代の頃よりNTTで新規事業開発を担当していた。スマイルエナジーに着任してからは今年で7年目となる。これまでサービス開発のセクションにマネージャーとして着任し、事業企画や経営計画セクションの責任者、広報活動も担当するなど経営企画系の業務に従事してきた。また民間法人向けのPPAサービスによる太陽光発電の電力自家消費や蓄電池の有事活用に関するサービスの責任者も担当した。

前任の小鶴慎吾氏の右腕としてこれまで事業に携わり、今後もその延長での取り組みを進めていきたい。FIT制度は終焉していくが、今後は自家消費

や脱炭素化というキーワードのもと再エネの普及拡大に取り組む。こうした取り組みに今後1～2年の中で世の中の変化にあわせたサービスをさらに開発してお客さまに利用して頂けるよう、新製品を増やしていきたい。太陽光発電は適切に保守管理を行えば30年程度は使用できる技術であり、これがしっかり発電していることを監視し、その長期安定稼働に貢献するエコめがねの取り組みに注力する。また再エネの最大限導入に向け、法人向けに太陽光や蓄電池を当社の投資で設備を設置して電力を供給するPPA事業の拡大も引き続き進める。さらに、これまでの国のVPP実証に続きデマンドレスポンス実証事業のメンバーとして当社も採択された中で、家庭に設置された蓄電池の制御を実証し、太陽光で発電する電力の吸収や系統安定化のための



武馬雄一郎氏
(NTTスマイルエナジー写真提供)

蓄電池普及にも貢献する。さらに、環境価値について色々な測定や立証方法が現在あるが、環境価値をしっかりと計測、レポート、証明するといった環境価値の流通にかかわる事業も推進する。そして、地域を軸として分散再エネ電源をP2P(Peer to Peer)によってつなぐために必要な通信や制御技術も開発していく。

——エコめがねの直近の導入実績を教えてください

武馬 直近の2021年7月時点までの実績として、エコめがねの導入発電所件数は8.1万件、合計容量では2.5GWに達する。遠隔監視システムの機能のほか出力制御対応のための機器としても評価され活用を頂く機会が増えている。エコめがねには商品自体のほか、商流もあわせた2つの点で強みがある



エコめがねのシステムの画面 (NTTスマイルエナジー画像提供)

と考えている。このうち商品としては、「さるる」のキャラクターを使った分かりやすい表示のインターフェイス、また蓄電エコめがねにおいて自家消費があがると地球のイラストがより青く鮮明に表示されるなど、グラフィカルでわかりやすさを訴求しているとともに、これまでの導入や稼働実績による安心感も評価を頂いている。商流面については、全国の販売会社とお取引をさせて頂いている。再エネ業界は制度の変更もしばしば行われその変更点が分かりにくいことがあるが、当社において変更点を適切に解釈するとともに、全国で施工に携わる方々への説明会開催やご質問への回答を行い関係を構築をしながら商品を取り扱って頂いている。このおかげでたくさんの販売パートナーにご貢献頂き、信頼感を評価して頂いている。

——これまで、また今後へのエコめがねの製品ラインアップはどのようなものがありますか

武馬 自家消費特化型の商材開発を推進している。発電と消費を可能な限りコントロールして逆潮流を発生させないようにしたり、またキュービクルの工事を可能な限り簡素化できる製品などもこれまで開発している。今後はFITから非FIT発電への移行が進み、例えば離れた再エネ発電所から系統を介して需要家に電力を供給するオフサイトPPAモデルの普及も見込まれる。またノンファーム型接続が実現した際には出力制御に関わる技術もさらに求められると見込んでおり、こうした世の中のニーズにあわせた製品開発を今後も推進する。今年も新商品をいくつかリリースしていきたい。

——最近では太陽光PPA事業に関する発表も相次ぎます。御社のPPA事業はどのようなものですか

武馬 PPA事業でもNTTグループ内でそれぞれの棲み分けがある。現在のPPA事業は当社とNTTアノードエナジーが分担・協力して展開している。



ソーラーシェアリングの発電設備 (NTTスマイルエナジー写真提供)

NTTアノードエナジーは大規模な発電所構築を得意とし、また民間のほか自治体向けサービスも展開している。これに対してNTTスマイルエナジーは、中小規模でおよそ250kW以下の設備によるサービスを民間法人向けに提供し、太陽光発電のほか蓄電池も活用した自家消費ソリューションを提供している。

——発電事業では営農と並行したソーラーシェアリングも開始しました

武馬 ソーラーシェアリングについては当社もまだまだ勉強中で、先行者の方々にもお話を伺っている。再エネを普及させるうえでどのようなスペースが使えるか考えた際に、建物の屋根上のほかに農地もある。農業を行う方々にとってもWin-Winな形を目指し取り組んでいく。20年目以降に設備をどうするか具体的な決定には至っていないが、やはり長期的に使えるようにしていくべきと考えている。

——地域新電力やE Vを活用した取り組みはどのように展開していますか

武馬 地域新電力の取り組みについては、直近ではNTTアノードエナジーが主に事業を展開しており、当社もこれに協力し中小規模の建物への電力供給や卒FIT買取などに替わる機能を提供している。地方においてはNTT東日本とNTT西日本が中心となり自治体

に対するアカウントを有しており、両社とも連携し自治体への提案を行っている。またE Vを活用した実証では、NTT西日本、日産自動車とともに、E Vを活用したビークル・トゥ・ビルディング(V2B)によるオフィスビルでのエネルギーコスト・CO₂削減実証を行い効果を確認した。V2Bの実証は欧州の先行事例も参考にしながら実施した。

——昨今の新型コロナウイルス感染拡大への影響はいかがですか

武馬 新型コロナウイルスの影響は感じており、対外的にはお客さまからも昨年度は訪問を控えてほしいとの要請を多く頂いた。営業活動が思うようにできず、さらに当社が得意としている展示会にも出展できず、新規のお客さまと接する機会が減少した。ただ、社内では開発チームの体制を充実させるとともに、社内のシステム環境はすでにコロナ以前から、完全なテレワークに移行しても対応できるよう構築していた。コールセンター業務も在宅体制に切り替えクラウドを活用した業務環境も整えて、出社しなくてもミーティングが行える開発チームの体制を採っており現在もそれが定着している。もっとも、遠隔よりもやはり顔を合わせて対面での仕事や打ち合わせをしたいと考えるスタッフも中にはおり、それが実現できていない難しさもある。